

## 第3回岡崎市総合政策指針審議会 会議録

日 時

令和元年 10 月 29 日（火） 10:00～11:20

場 所

岡崎市役所東庁舎 4 階第二来賓室

出席委員及び欠席者

（出席委員）

NPO岡崎まち育てセンター・りた 事務局長	天野 裕	委員
あいち三河農業協同組合 代表理事組合長	天野 吉伸	委員
岡崎商工会議所 会頭	大林 市郎	委員
東京大学 教授	小川 光	委員
名古屋都市センター センター長	奥野 信宏	委員
前 男女共同参画推進審議会 委員	鬼武 孝江	委員
愛知県西三河県民事務所 所長	加藤 千春	委員
岡崎市総代会連絡協議 会長	神尾 明幸	委員
岡崎信用金庫 理事	河原 一夫	委員
福和 信夫 委員		
岡崎大学懇話会 会長	堀越 哲美	委員
ミクスネットワーク(株) 常務取締役	森崎 健吾	委員

（欠席委員）

岡崎市医師会 会長	小原 淳	委員
連合愛知三河中地域協議会 副代表	小林 正幸	委員
岡崎市観光協会 会長	志賀 爲宏	委員
学泉大学 学長	寺部 暁	委員
岡崎市教育委員	福應 謙一	委員

（事務局）

市長	内田 康宏
副市長	山本 公德
総合政策部 部長	永田 優
総合政策部企画課 課長	岡田 晃典
総合政策部企画課 副課長	山本 英樹

総合政策部企画課 係長 鈴木 昌幸  
総合政策部企画課 主事 藤井 聖士

(傍聴者)

2名

次第

## 1 議題

「岡崎市総合政策指針（案）について」

<会議要旨>

《答申》

事務局より、「岡崎市総合政策指針（案）」について説明。「岡崎市総合政策指針（案）」について、適当であるとの議決を得られたため、奥野委員より内田市長へ答申

《議題》

事務局より、「次期総合計画」について説明。

【各委員の主な意見】

- （資料3について）「エリア」とはどのエリアを指しているか。
- （資料3について）未来投資パッケージの絵があるが、各項目は個別ではなく、それぞれ相互に関係しているものである。そのところを部局でバラバラにならないよう企画課で調整していただきたい。
- 主な取組として、例えば暮らしを支える都市づくりの中には密集市街地の問題があるが、密集市街地自体にも魅力があり、トータルで考えると様々な可能性がある。また、生涯学習においても。公民連携に資するコーディネーターを養成することや、誰もが参加できる教育的な生涯学習といった視点や、商業発展を学ぶことによって新たなまちづくりを担う人々を育成するといった視点など、様々な角度から考えていただきたい。
- （資料3について）指針の4、5、6、7はまだ重複しているところがあり、整理しきれない印象を持った。また、具体的な中身を見ると組織縦割りになっている。
- 「スマートでスリムな行政運営の確立」について、ここまで公務員を削ってよいのか、むしろ積極的に公共サービスを充実させるという考え方も重要である。市役所は地域の最も重要なシンクタンクであるから、削るばかりではなくて、シンクタンクの役割がもっと前向きに働くような書きぶりがよいのではないか。
- 市民ではない人は、岡崎市のどこに魅力があるかをわかっているわけではない。このような議論をする際に、企画課から岡崎市の魅力を説明するプレゼンテーションをしても良かったほうが良い提案がしやすい。

- 例えば、周辺市から通学している岡崎高校の生徒を招いて、岡崎の良さ・悪さなどを忌憚なく聞きたい。どうして東京に行ってしまうのかなどについて、現状では若い人たちの意見を聞く機会がない。高校生等に意見を聞かせてもらう機会があると、この10本の柱が若者からどう見えているかがわかるだろう。
- 主な取り組みになると、急に細かくブレイクダウンされすぎている。主な取り組みの一つ手前に、岡崎市の将来像を示すような言葉があった方がわかりやすい。
- 気候変動などがあり、去年までの考え方が異なってくる可能性もある。もう少し土地利用に踏み込んだ政策が出てきたほうがよい印象を持った。
- 岡崎市が10年後、30年後に何で食べていくのか。それが若い人たちにとって魅力的なものなのか。観光やものづくりで、高校生・大学生が岡崎市に住みたいと思うのだろうか。「この産業で食べていくには若い人たちが必要だ」というメッセージが見えると、若い人に対する訴求力があがるだろう。
- 今回の指針で重要なキーワードは「集約」と「連携」であると読み取れる。しかし、未来投資計画の中では「連携」の部分が弱いように感じる。「集約」ばかりだと市全体としての持続性は薄れていくのではないか。10年かけて、中心から周辺へ効果が波及するような道筋を示した投資計画がよいのではないか。
- 未来投資計画はすばらしいと思う。一方で、役所内のセクショナリズムの課題を感じる。今回のように企画課が調整に入るのが望ましい。縦割り行政では、市民のために何をすべきかという基本的な考え方が欠如してくる。関連した内容であれば、企画課が間を取り持ち、複数課で協力し合える体制をつくって進めてほしい。
- 総合計画は長期計画なので、様々なことを盛り込む必要があり、このような形になるのはやむを得ないだろう。しかし、世の中の変化は速く、過去にない気候変動も起きており、経済もグローバル的にかかなりのスピードで進んでいる。このような時代の変化を踏まえて、岡崎市として何をやるのかを肌感覚でわかるように書いてほしい。やってみることで新たに発見することもあるため、やれることを早く実現することが重要である。やっていたら少しずつ波及し、波及によって連携も生まれる。計画を作って満足せず、一つひとつ行動することが効果的である。
- パッケージ化は良い取り組みだと思う。
- 資料にあるように、仮に観光産業都市を目指すのであれば、教育、文化財保護等の観点からも予算をつける。10年の計画なので、多くを巻き込んで計画を立てるほうが予算なども取りやすいだろう。
- 「スマートでスリムな行政運営の確立」について、公単独では何をやるのかが見えてこないなので明確化した方がよい。
- 観光施策が上手なところの多くは、ストーリー作りが上手である。そういった点で岡崎市は、家の前の道が実は歴史的なものであったりするなど、誇りにもなる部分も多いだろう。

- 「女性がいきいきと活躍できる社会づくり」とあるが、男女共同参画の視点では、「誰もがいきいき」である。女性が活躍するには、男性や他の人も一緒に頑張らないといけない。全体を読んでいく中でここだけ浮いているように感じた。
- パッケージに含める分野の組み合わせについては、様々な考え方があろう。パッケージの組み合わせを考えるのは大変な作業であると思うため、タイトなスケジュールになると思うが頑張してほしい。
- 「スマートでスリムな行政運営の確立」について、他市と比べて職員数が多いと思わないし、減らすことだけがよいわけではない。AI や RPA などを導入することで単純作業を担う人員を浮かせるのは良いが、そこで削減した人員を他で活躍させてほしい。岡崎市がよくなるのであれば、人員を増やしてもいいだろう。議員数なども含めて考えていく必要がある。
- 現在、遊休農地が増大している。農地の保全が大切だということも理解していただきたい。そのような状況下で、農業後継者をどう育てていくかも今後重要になってくるだろう。
- (資料4について) 題目に「商業と観光が成長産業となる…」とあり整理してあるが、その中に「農業」も加えていただけるとありがたいと感じた。
- 事業課と企画課の連携は重要なことだと思う。
- これらの重要な取組を実行するにあたっては、予算的な制約も考えられ、優先順位をつける必要が出てくるだろう。その際、企画課が財政部局との調整の前面にでていただくことが必要と感じた。
- 環境や経済が都市の持続性の軸になるのは当然だが、加えて「人」がいかに地域に愛着を持ち、社会を支えるための活動にやりがいをもって参加できるかも重要である。その点が、指針の4、5、6で言及されており、バランスが良いと思った。
- (資料3について) 観光産業都市パッケージについて、外から人を呼ぶ以前に、すでに住んでいる人がまちに魅力を感じ、誇りに思い発信をするという視点も重要である。
- 具体的な課題から指針を組み立てているように感じるが、岡崎市が目指す将来像などを示し、そこに暮らしの質のようなものが出ていると良い。それを市民全体で支えていくイメージをビジョンとして見せられると良い。
- 「誰もが学び活躍できる社会づくり」には、若い人が社会づくりに関わられるような学びの場、参画の場を組み立てていくという視点も必要である。各課の個別計画だけでこれらが実現できるかは疑問である。そのあたりをカバーできるようなパッケージの組み立てが今後の課題となるだろう。
- 優秀な人材の流出は避けられないが、岡崎市に戻ってくるような機会づくり、情報提供が必要である。小中高の間に地域に対する愛着を育む活動をするのと同時に、外に出ていった人には今の岡崎市を伝える、魅力を発信することが重要となるだろう。
- (資料3について) 「観光産業都市」は「観光都市」で良いのではないかと。「産業」入れる

とぼやかしている印象を受ける。

- （資料3について）「商業と観光」とあるが、順序が逆のほうが良いのではないか。資料によって表記が様々である。
- 農林業は三河において非常に重要な産業である。岡崎市には愛知県立農業大学校という伝統校もあり、「観光農園」と言及するのみでは寂しい。
- 観光客の宿泊状況はどうなっているか。
- 高校生には、岡崎市に住み続けるイメージを与えられるといい。将来やりたい活動をするには、どこに行き、どのようなキャリアを積みばいいのかということがイメージできずに東京に行ってしまうたりする。目標となりそうな人、実際に岡崎市に住みながら活躍している人に参加してもらい、岡崎市だからこそ実現しているという話をすると効果が上がると思う。

#### 事務局回答

- 集中投資をしている、QURUWA エリアから東岡崎駅周辺までのエリアを指す。
- 現在、市内高校で対話集会を開き、市長が高校生の意見を聞く場を設けている。また、市役所内でもセクションを超えた活動に取り組んでおり、パッケージで事業を進める場合にもセクショナリズムにならぬよう進めていきたい。
- 来年以降、今回の答申を市民に発信する場を設ける予定である。その際には高校生等の声を聞ける体制を整えていきたい。
- 分野別の指針に関して、「女性がいきいきと」の部分は、以前から審議の対象となっており意見が分かれている。今回は10年の指針なので、この10年間は特に女性にフォーカスをしていくということで、あえて「女性」を入れることはご了承いただきたいが、前回の審議会の意見も踏まえ検討する。
- 農業について、別のパッケージにも含めていくことを含め、検討していきたい。
- 計画を作って満足しないよう心掛けたい。また、予算も重点的に配分できるような形を目指していきたい。
- 市内のホテルの稼働率はかなり高いが、観光ではなくビジネスの方が多い。
- 観光資源はあるが、ストーリー作りができていない。観光客を対象とした歴史観光だけでなく、市民にとってのまちの魅力も観光資源と考え誘客を進めていきたい。観光客、市民、ビジネスの方の誰もが岡崎市を楽しめる形にし、それを産業としていきたい。
- 若手職員が企業ヒアリングや大学生を巻き込んだ活動などを行っている。今後も注力していきたい。

以上